1　快適な農村環境を考えよう

(1)　誰のための環境・景観整備なのか

本州のデパートなどの北海道物産展で農畜産物を販売すると、大好評と関係者から聞きます。

つまり、広い大地と澄んだ空気、低農薬で生産された農畜産物のクリーンなイメージが多くの人に理解されているからです。

反面、酪農家の子供たちが、学校給食の牛乳は飲むが、自分の家の牛乳は飲まないと聞きます。汚い牛舎環境の生産現場を見ている事が大きな要因になっているからでしょう。皮肉なものです。

今までの農業は、都市住民なみの所得確保と生活様式を求め、生産一辺倒の経営方法でした。街から農村の自然環境に憧れて来た女性も、いつしか農村の生活慣習になじみ、自然の素晴らしい景色を堪能することなく、生産性向上に励んできました。

これからは、「ゆとり」の無い生活では、生きる喜びやアイデア、消費者ニーズの情報収集もできず、後継者も育ちません。

最近、「自然にやさしい環境づくり」などの環境標語が目立ちます。環境整備をするためには、まず、「自分にやさしい」ことが大切です。家族に理解を得て、時間を作ることです。

農村環境は、他人のために整備するのではなく、農業者が住んで楽しい居住環境を整備することです。

写真１　住宅・畜舎等の屋根・壁の色が統一され、芝生もある美しい環境

(2)　農村景観とは

数年前までは、農村環境の素晴らしい所と言うと、ドイツ・フランス・スイスなど、ヨーロッパの国々が紹介されてきました。

どこが、私たちと違うのか考えてみます。

○　古い石づくりの建物の屋根・壁・窓の色彩が制限されたり、統一されている

○　宅地内の建物の数が少ない。また、建物の配置が美観上からも工夫されている

○　敷地内に、屋敷林などが植栽され、小鳥・りすなどがくる環境づくりをしている

○　ポニーや羊・山羊などの小動物を飼育している

○　芝生が広く、宅地の延長上にある牧草地は、芝生のように良く管理されている
○　古い建物を大切に使用・管理している
○　北緯52度の気象条件の厳しいところでも、実の小さいものしか収穫できないが、「りんご」を植え、自家用に栽培し楽しんでいる所もある
○　ファームインを経営している所が多く、都市と農村の交流の場がある
○　街の中には、ゴミや飲料水などの自動販売機がなく、すっきりしている
○　地域・国全体が環境づくりに取り組んでいる
○　窓辺などにゼラニウム等の色とりどりの花がプランターなどに植えられ、道行く人々にも見せる演出をしている
○　農道にはサイクリングや散策をする人々の農村風景がある

このように、建物のデザインや色彩・芝生造成の様に見た目や形でとらえるものと、農家が培ってきた風土や文化をも加味したものがヨーロッパの農村景観なのです。

写真２　ドイツの農家住宅とファームイン（築後500年）

つまり、現在、農業者が営農しているすべての場面が魅力的な農村景観の素材なのです。都会にはない耕地防風林・屋敷林・歴史ある農家住宅や畜舎・広い芝生・農地に作付けされた作物の織りなすパッチワーク模様・日々生長する作物の有様・刻々変化する大草原の七変化・牛馬の放牧風景、農地を横切る河川・大地に点在する農家の配置・多種類の小鳥など枚挙にいとまがありません。

この様に、少し、「心の余裕」をもって農業を見渡したり、生産だけの生活から「ゆとり・豊かさ」に、少し目をむけると、快適で暮らしやすい農村景観を整備することができます。

(3)　今、なぜ農村環境整備が大切か

今までは環境整備というと、花壇を設置したり、宅地周辺のゴミの片づけ・不用なものの焼却などと幅の狭い意味でいわれていました。